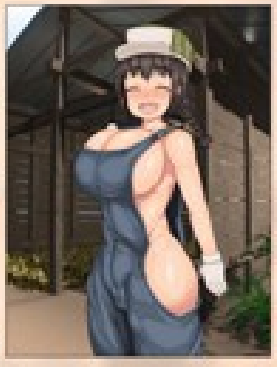
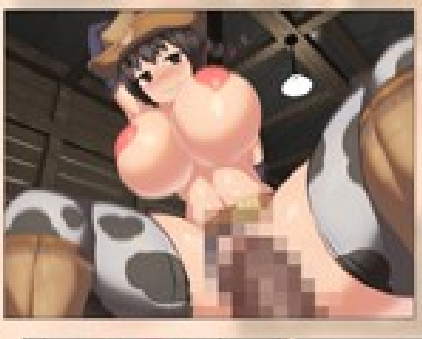
田舎の牧場で飼育員さんとのんびりエッチ



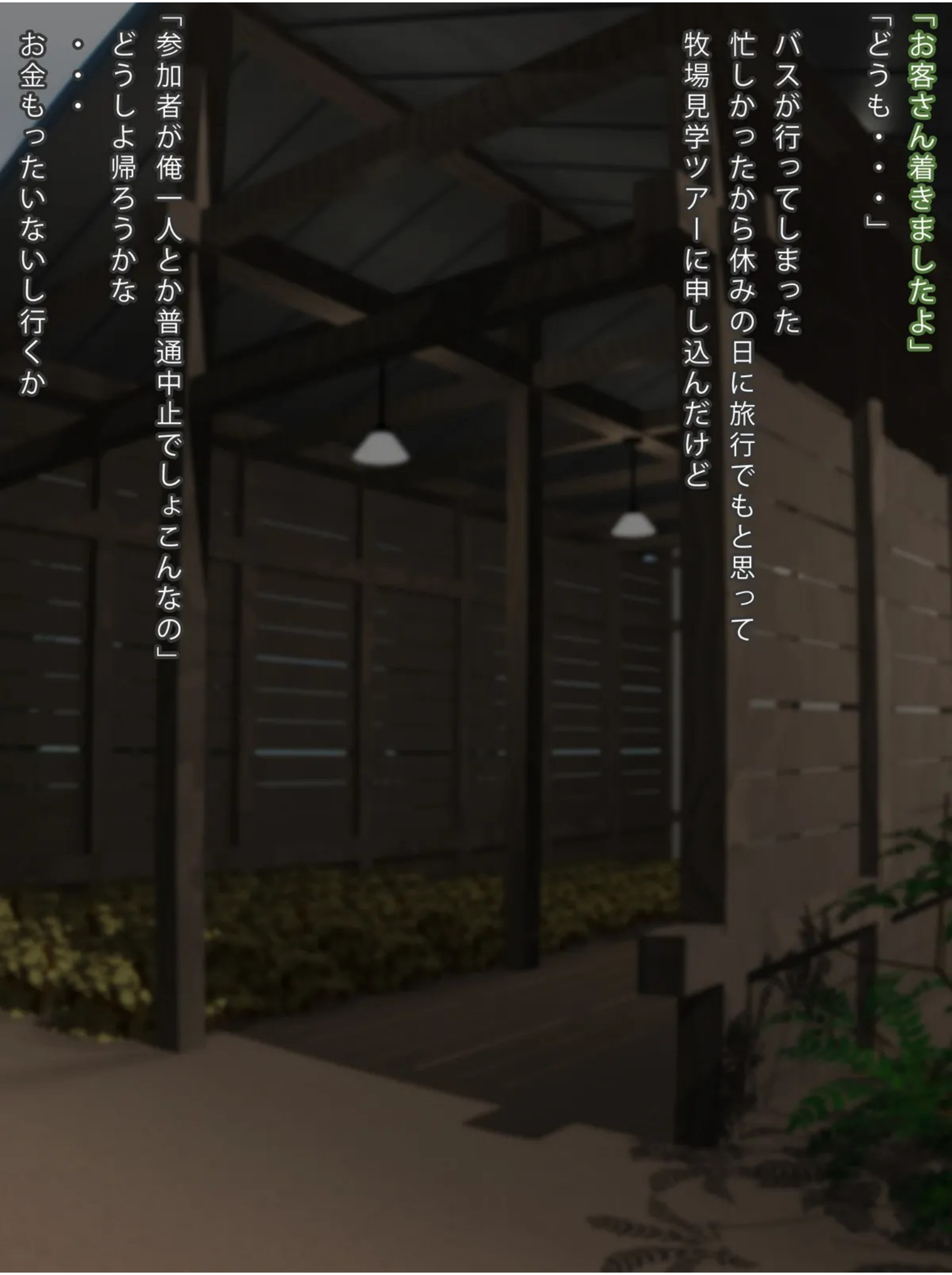







「牛の乳絞りを体験してもらいます♡」

# 飼育員さんと学んで子作りもする牧場体験


「お客さん着きましたよ」
「どうも・・・」
バスが行ってしまった
忙しかったから休みの日に旅行でもと思って
牧場見学ツアーに申し込んだけど
「参加者が俺一人とか普通中止でしょこんなの」
どうしよ帰ろうかな
・・・
お金もったいないし行くか


「すいません、牧場見学ツアーに来たのですが」
「あらっ、予約の方ですね！男性お一人の！」
『あっはい・・・・」
「遠くから来てくれてありがとうございます！」


「それではさっそく見学ツアーに行きましょう！」
（ものすごくパワフルな人だなぁ・・・身体も含めて）
（何だかんだで楽しみになってきたぞ）


「こちらが牛小屋になります
まずはここで乳絞りの体験をしてもらいます」
「あれ？でも牛はどこに？」


「最近では機械でするので
残念ながら牛のお乳を手で絞る事は無いのですね」
「あー・・・そうなんですか」
（施設見るだけか、せっかく体験できると思ってたのに）
「・・・なので」


「私で疑似体験してください」
「！？」
タプッ
ポヨッ
「子供の頃から母乳が出る体質なので本物と変わらず体験できますよ」
（いや、そういう問題なのか！？
・・・でも、本人がいいなら、せっかくだし）


「少し強めで・・・そうです・・・上手ですよ・・・んぅ・・・」
んっ♡
んぅ♡
ムギュ
ギュッ
ギュッ
「そろそろ出ちゃいます・・・」


ビクン
あっ♡
ぐぁ♡
ブルッ♡
グッ
ギュウ
プシャーーー


「ふあぁ・・・お、おつかれさまでした・・・」
（痙攣してるけどこれ胸揉まれてイったんじゃ・・・）
はーー♡
ブルッ
「さて、では次のコーナーへ行きましょうか」
「ちなみに次はどういうのですか？」
「お馬さんの繁殖コーナーです
しかし残念ながらお馬さんも本日いません」
「なるほど・・・あれ、ということは」
キュン♡


「ここがお馬さんの繁殖部屋です」
「繁殖・・・」
「オスがメスに覆いかぶさって種付けをするのですが
結構激しくて射精の量もすごいんですよ♡」
「では体験してみましょう」


「遠慮せず好きなようにしてくださいね」
（好きなように・・・）
ズリ
ズリ


ズブッ
グブッ
ズブッ
あっ♡
んっ♡ん


「くぅ・・・・」
「射精が終わるまで腰を押し付けて下さいね」
（あぁ・・お腹の中にびゅーびゅー入ってきます・・・）
ブルッ
んっ♡
ドプッ
んぅ♡
ぎゅ～～～


「・・・ふぅ、お疲れ様でした
お馬さんの気持ちになれましたか？」
「はい、その・・・とても気持ち良かったです」
「それはよかったです♡」
グッグッ
はぁ♡
ビュ～～～
はぁ♡
ドクッ
ドクッ
「次はえーと・・・あぁ、乗馬コーナーです！
ちょっと準備してきますね」
（乗馬なんて何するんだ？俺が何かに乗るの？）


「お待たせしました！
次は乗馬コーナーですのでお馬さんになって下さいね！」
（俺が馬なのか・・・）
「それでは失礼しますね」


ズンッ
ダパッ
ダパッ
ズンッ
（うぁ・・腰の動きやばすぎる）


（ぐぅ・・・吸われる・・・っ！）
「下からたくさん注がれてます♡」
あは♡
ん♡
ブビッ
ゴポッ
ドプ
（すごく嬉しそうだ）
「むっ、どうしました？」


「飼育員さんもそういう所あるんだなと」
「そ、そうですか!?変ですかね・・・」
「変というか・・・あっても可愛いですよ」
「も、もぉ!もぉー!」
（ほんと可愛いなぁ）
（・・・やべっ、出したばかりなのに）
こうなってしまうと
自分でも歯止めが効かなくなって
ムクムク
カァ～～


はーい♡
はーい♡
ビクッ
ゲリッ…


ズブッ
ズブッ
ぐっ♡
あんっ♡
ぐぐぐ
ぐぐぐ


ドプッ
ドプ…
ゴポッ♡
ブビ…
おぁ〜♡
んぁ♡
おっ♡
イ
ン
グ!


ビュー
ビクン
あ～～♡
ビクッ
く…ぅ～～♡
ブビ
ビクッ


「はぁ・・はぁ・・もう夕方ですね・・・・
本日の牧場見学は・・これで終了です・・」
「はぁ・・はい・・・・」
（めちゃくちゃ疲れた）
「・・・・ふう、汗かいちゃいましたね
牧場見学は終わりましたがツアーは続きますよ、次はお風呂です」
「おぉ良いですね、お風呂」


「本日はお疲れ様でした～」
（一緒に入るのか・・・嬉しいからいいけど）
「？」
ペラペラ
「このお風呂ですがこれも
牧場の魅力の一つなんですよ
作りはごく普通ですが
お湯は近くの温泉から持ってきてて
血液促進や性力増強などの効果が・・・あっ
さっそく温泉の効果が出てますね！」
（いや、これはあなたの裸体で勃起しただけです・・・）


「このままじゃ苦しいですよね、お手伝いしますよ」
「ちょ、ちょっと、汚れますよ」
～♫
「源泉かけ流しなので大丈夫ですよ～」
「そうじゃなくて君の体にかかって・・・くっ」
ズリュ
ズリュ


ドゥッ
ドゥッ
ドロ～……


「いっぱい出ましたね、さすが温泉です！」
（だから温泉が原因じゃないよ・・・）
（それにしても出したので汚れても
全く気にしないで笑顔のままとか
そういうのは股間に悪いぞ・・・）
「おや？また大きくなっちゃいましたか？
落ち着くまでいっぱいしましょうね」


よく覚えてないけど
笑顔で何しても怒らない飼育員さんの
ヤバいくらいエロい身体に
好き放題むしゃぶりついて
必死に腰を振ってた気がする・・・
グリグリ
ズンズン
ズンズン
ズンズン
ズンズン
ズンズン


ズブ
パン
ズブ
パン
ズブ

ブビュルルル……
ドピュッ
ビュッビュッ


「はぁ・・はぁ・・すごかったです・・・
もうお腹のなかいっぱいで・・・あ、あら？
もしもし？大丈夫ですか？」
「・・・気絶しちゃってますね」


『。。。あれここは』
「おはようございます。脱衣所のソファーですさっきお風呂で気を失っちゃったんですよ」
「急に動くと危ないのでしばらくは安静に・・・」


「あれだけしても・・・うふふ」
「めんぼくない、あのさっきみたいに・・・・」
「あなたが平気ならお手伝いしますが
具合悪くなったら言って下さいね？」
「はい」
「あっ、それと・・・・」


《おっぱいが欲しいなんてかわいいですね》
ナデナデ
ん～～…
グニュ
グニッ


ドビュッ
ドプッ
ビュ～～～…
うん♡


（。。。こんな出たのに全然足りない
もっとこの人を抱きたい
昼間みたいにもっと）
「もうこんな時間ですね
ではひとまずお食事にしましょうか」
「あの、俺はもう大丈夫なので、その。。。」
「はい、続きはお食事の後にちゃんと休んでから、ね？」
「！。。。わかりました」
「楽しみです♡」


食事中も頭の中はセックスする事しか考えられなかった
それは飼育員さんも同じだったようで
挿入前から垂れるほど濡れていた


ズブ
ズブ
ズブ
あぁ
あぁん


ビュ
ビクッ
ドプッ
ビチャ
ビチャ


ビュ～～～～～～～～～～
ブビュ～～～～～
ドプッ
ドプッ…
ガクガク
（あ・・・
腰引かせないように
ガッチリ掴まれてる・・・
もう子宮内まで精液まみれで
溢れちゃってるのに
射精が終わるまで
全部中に流し込む気なんだ・・・）
あっ♡
あ～～～♡
ピクッ
ピクッ
あっ♡
あぁ～～♡


「こ、こんなエッチな格好でするんですか・・・？」
「はぁ・・・はぁ・・・」
（あぁ・・聞こえないくらい興奮してくれてますね
私も人の事言えないくらい興奮してる・・・）
ドキ
ドキ
「・・・そんなに興奮してくれるなら
本気の子作りしましょうか？（ボソッ」


ズズ
「んあっ！」


（一気に奥まで・・・っ！）
（そのまま力任せに出し入れされてるぅ・・・）
おっ♡
ドスッ
ドスッ
ズボッ
ズボッ


「んぎっ！」
ドプッ
ブビッ


（あっあっ、射精しながら子宮ノックされてる）
（こんな激しいのに、これすごい・・・
すごい気持ちいいよぉ・・・）
ズンッ
ズン
ビクッ
ドプッ
ドプッ
おおぉ
ぉぉ
ぉぉぉ


（ふぅ・・ふぅ・・まだ心臓バクバクです・・・）
「あの・・・飼育員さん」
はぁ～～♡
はぁ～～♡
「んっ・・・何でしょうか？」
「本当にいいんですか？」
「？」


「子作りって・・・」
（あ、あれ？聞いてたんですか？ちょっと恥ずかしい）
「あー・・・ええと、はい
改めて私からお願いしますね
あなたの子種で孕ませてください♡」


ツアー最終日の朝
あ♡
あ♡
タプン
タプン


ンダルル♡
あん♡
ブビビ〜〜…
ドププッ
ドクッ
ドプッ


「朝になっちゃいましたね・・・
これにてツアーの全日程が終了です！」
「あ、はい」
（そういえばそうだったね、忘れてた）
んー♡
ニコニコ


「実はこのツアーはただの牧場体験ツアーじゃなかったんですね」
「ふーん・・・・・・えっ？」
フフ・・・


「ここらへんの牧場は跡取り不足でしてね
そこで牧場協会の会長さんが考えたのが
跡取り確保ツアーだったんですね」
（・・・ん？ん？どういう事！？
ちょっと待って頭が回らない）
「・・・ん？跡取り？」
「はい、もちろんあなた次第だったのですが
あれだけ確かめ合ったらもう♡」
「話が急で」
「確実に妊娠してますよね」
「まぁ・・うん・・そう・・・・そうですね」


「明日から私と牧場をよろしくお願いしますね
あと子供は10人くらい欲しいのでがんばりましょうね」
「じゅ、じゅう・・・」
「毎日子作りがんばりましょうね」
「・・・」
「がんばりましょうね？」
「はい・・・」
「うふふ、楽しみです♡」
（体もつかな・・・）
おしまい

